



施政方針 平成26年度

平成26年第1回熊野町議会定例会において、町長が平成26年度の施政方針を述べました。
町政運営に対する所信と施策の概要をお知らせします。

(企画財政課)

【はじめに】

平成26年度の予算案並びに諸案件のご審議をお願いするに当たり、私の所信および町政の基本方針を申し述べます。

【町を取り巻く諸情勢】

我が国の景気は、緩やかな回復を続けており、今後輸出の持ち直しや家計所得の増加などにより、回復基調が続くものと期待されています。

しかし、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が見込まれることから、企業収益や雇用情勢の動向は流動的です。
また、デフレ脱却は道半ばであり、地方経済が未だ低迷を続けるなかで、本町財政も依然として厳しい状

況にあります。

【重点的な取り組み】

総合計画に定める政策体系ごとに重点配分を行うなど、事業の「選択と集中」を図りました。そのなかでも、西公民館の改築を中核事業とした都市再生整備事業の着手などによる「暮らしの基盤が整ったまちづくり」、生活福祉交通の運行や生活道路の改良などによる「日常生活を快適に暮らせるまちづくり」、子育て支援の充実や学校施設の耐震化などによる「子どもが健やかに、たくましく育つまちづくり」の3点を重点的に推進します。

【各部門の取り組み】

〔総務部門〕

住民対応などを行うシス
工事中の道垣内交差点は、引き続き工事が行われ、来年3月の完成予定です。
県道瀬野呉線では、新宮地区において、引き続き交通安全施設等整備事業による改良工事が行われる予定です。

砂防事業は、雲母川における通常砂防事業において、本年度に引き続き用地買収が行われる予定です。
深原地区町有地造成事業は、新年度に水道施設の設計と工事を行い、産業基盤の整備が終了します。

生活道路の整備については、東部地域の「初神西線」、中央地域の「道上線」の改良工事などを実施します。

これまで継続的に行ってきた熊野団地内の側溝整備事業は、新年度から国の補助金を活用した都市再生整備計画事業に位置付け、3年間

で整備を完了させる方針で、関係機関と協議をしています。また、この事業を活用し、石神緑地に照明

テムは、平成28年度から廿日市や江田島市など5市町と共同利用する、いわゆるクラウドという新たな仕組みのシステム利用を行うことにしました。クラウドは、国も推進しており、全国的にもこの流れが加速していくものと考えます。

生活福祉交通「おでかけ号」は、利用状況が増加傾向にあり、日常生活の移動手段に期待されていることから引き続き運行します。

筆の里工房は開館20周年を迎え、熊野筆文化の振興と発展を目指し、記念行事として式典や企画展「日本の書展」などの関連事業を実施します。

また、町への誘客が見込まれる筆の里工房の企画展に合わせ、熊野町の魅力を紹介するイベントを開催し、定住交流人口の増加を図ります。

商工業の振興策としては、引き続き、伝統産業である筆産業を中心とした地域産

業への支援を行うとともに、商工会との連携を強化し、元気のある産業が育つ町を目指します。

筆産業の振興については、熊野筆事業協同組合の第3次振興計画の推進を支援します。

消費税率引上げに伴い、子育て世帯や低所得者を対象に支給される、臨時福祉給付金などについて適切に対応します。

「子ども・子育て支援新制度」や「社会保障・税番号制度」などの導入に向け、電算システム改修などの準備を進めます。

母子保健では、健やかな妊娠、出産、育児を支援するため、妊婦健診、乳幼児健診や育児相談、乳児家庭全戸訪問事業などを引き続き実施します。

保育所においては、発達障害児に対する保育士の加配措置や保育士の処遇改善に取り組み保育所への財政

人口の維持、地域の活性化を図ります。

公共下水道事業は、新宮地区及び川角地区の一部において、約41haの整備と出来庭地区の滝ヶ谷団地の実設計業務を行います。

上水道事業は、高所配水団地水道施設である城之堀団地を引き続き整備し、新宮、初神および川角地区の未給水地区の整備、熊野団地内の老朽管についても、計画的に更新します。

〔教育部門〕

安全・安心な教育環境の充実のため、国の補正予算による学校施設環境改善交付金を活用し、熊野中学校普通教室棟耐震補強工事を実施します。これにより、学校施設の耐震化率は、来年度末で96・3%となり、国が指導する期限までに耐震化率100%が達成できる見込みです。同じく、防災機能を強化するため、熊野第二小学校体育館天井落下防止工事を実施します。

支援措置を講じるなど、育環境の充実に取り組みます。

子育て世帯への経済的な負担軽減策については、小・中学生の入院医療費と小学校就学前の子どもを対象とした医療費の無償化を引き続き実施します。

障害者施策については、障害福祉サービスの利用者一人ひとりに対し、サービス利用計画を作成し、きめ細かな対応を行います。

障害者の就労の場である「福祉作業所ハナミズキ」の運営を支援し、雇用の場の確保に努めます。

高齢者施策では、超高齢社会が一層進展するなか、団塊の世代の全てが後期高齢者となる10年後を見据えた「地域包括ケア体制」の推進を図る必要があり、中長期的な視点を盛り込んだ、「第6期介護保険事業計画」を策定します。

感染症対策としては、予防接種法に基づき予防接種

また、引き続き熊野町学力検査を実施し、児童生徒に応じた学習指導を実施します。

新年度も学校支援員を小・中学校に1名ずつ配置します。中学校には、生徒指導相談員を1名ずつ配置し、不登校や学習相談に対応します。また、家庭教育支援アドバイザーや配慮支援員の配置により、家庭環境や情緒的に課題のある児童生徒にきめ細かく対応します。

町民会館の舞台照明設備を改修し、生涯学習拠点としての機能を高めます。
また、快適な居住環境の再生を目指す都市再生整備計画事業の中核施設として、西公民館を移転改築するため、測量および建物の実設計と造成工事を行います。

【おわりに】

今後も、住民の視点に立ち、第5次熊野町総合計画に沿ったまちづくりに全力を傾注してまいります。